

海外の畜産物の需給動向

牛 肉

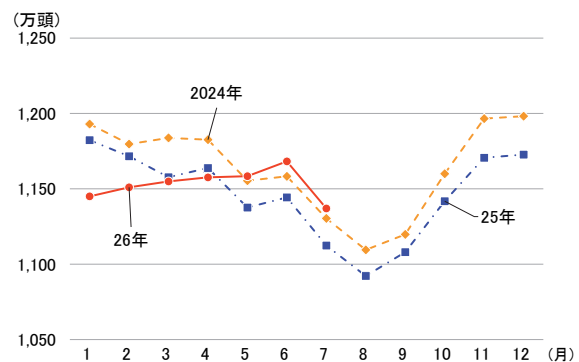
米 国

26年6月の牛肉生産量は前年同月比0.9%増、肉用繁殖後継牛の頭数が増加

26年7月1日時点のフィードロット飼養頭数は2.2%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2026年7月1日時点の牛総飼養頭数は9420万頭（前年比0.2%増）と前年並みであった（表1）。内訳を見ると、肉用繁殖雌牛は2845万頭（同0.7%減）とわずかに減少した一方、未經産牛のうち肉用繁殖後継牛については380万頭（同2.7%増）とわずかに増加した。また、フィードロット飼養頭数は、1137万頭（前年同月比2.2%増）とわずかに増加した（図1）。

図1 フィードロット飼養頭数の推移



資料：USDA「Cattle on Feed」

注1：1000頭以上規模のフィードロットが対象。

注2：各月1日時点。

表1 種類別牛飼養頭数の推移

（単位：万頭）

区分	2025年	26年	前年比 (増減率)	(参考) 25/23年比 (増減率)
総飼養頭数	9,400	9,420	0.2%	▲1.5%
繁殖雌牛	3,810	3,810	0.0%	▲0.8%
肉用牛	2,865	2,845	▲0.7%	▲1.2%
乳用牛	945	965	2.1%	0.5%
未經産牛 ※1	1,460	1,470	0.7%	▲2.0%
肉用繁殖後継牛	370	380	2.7%	▲2.6%
乳用繁殖後継牛	350	360	2.9%	0.0%
その他	740	730	▲1.4%	▲2.6%
去勢牛 ※1	1,380	1,390	0.7%	▲1.4%
種雄牛 ※1	190	190	0.0%	0.0%
子牛 ※2	2,560	2,560	0.0%	▲2.3%

資料：USDA「Cattle」

注1：表中の※1は500ポンド（約227キログラム）以上、※2は500ポンド未満。

注2：各年7月1日現在。

注3：24年7月の調査は実施されなかったため、23年と25年を比較。

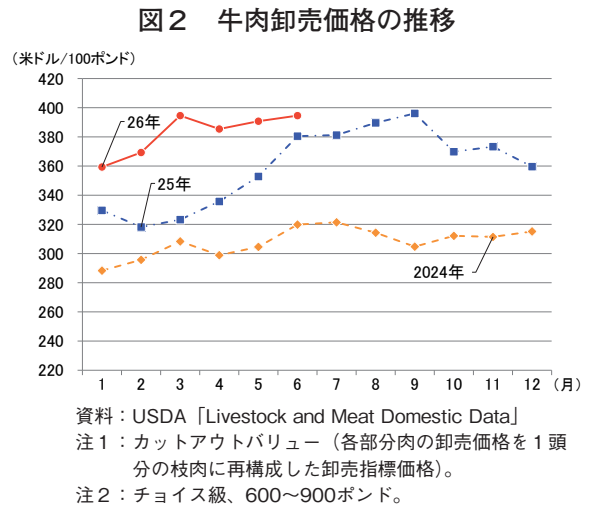
26年6月の牛と畜頭数は238万頭（前年同月比1.9%減）とわずかに減少した。一方、同月の1頭当たり枝肉重量は403.2キログラム（同2.8%増）とわずかに増加し、と畜頭数の減少を補ったことで、同月の牛肉生産量は95万5000トン（同0.9%増）とわずかに増加した。26年の牛肉生産量について同局は、前月予測から6万8000トン下方修正し1147万トン（前年比2.7%減）と見込んでいる。米国では牛群再構築の兆しが見られるものの、今後は、後継牛を確保するため肥育もと牛の供給が短期的に減少するとみられ、牛肉生産量の本格的な増加には時間を要すると見る向きもある。

26年6月の牛肉卸売価格は前年同月をやや上回って推移

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2026年6月の牛肉卸売価格（カットアウトバリュー^{（注1）}）は、100ポンド当たり394.6米ドル（1キログラム当たり1407円：1米ドル＝161.72円^{（注2）}、前年同月比3.7%高）と前年同月をやや上回った（図2）。また、肥育牛（ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢）の価格は、同256.5米

ドル（同914円、同7.7%高）と前年同月をかなりの程度上回った。

（注1）各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。
（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年7月末TTS相場。



26年5月の牛肉輸出量は前年同月比14.5%減

USDA/ERSによると、2026年5月の牛肉輸出量は8万9099トン（前年同月比14.5%減）とかなり大きく減少した（表2）。この背景には、米国において牛肉生産量が減少したことおよび価格の上昇に伴い価格

表2 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2025年 5月	26年 5月	前年同月比 (増減率)	構成比	26年 (1～5月)	前年同期比 (増減率)
韓国	30,658	24,078	▲21.5%	27.0%	115,222	▲12.2%
日本	25,956	21,824	▲15.9%	24.5%	101,353	▲19.4%
メキシコ	11,222	8,429	▲24.9%	9.5%	49,963	▲16.0%
カナダ	8,468	6,952	▲17.9%	7.8%	38,790	▲10.9%
香港	4,115	6,835	66.1%	7.7%	30,568	84.1%
台湾	6,825	6,721	▲1.5%	7.5%	30,870	3.7%
中国（参考）	2,157	373	▲82.7%	0.4%	3,206	▲94.8%
その他	14,798	13,888	▲6.1%	15.6%	73,876	8.4%
合計	104,196	89,099	▲14.5%	100.0%	443,849	▲17.2%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注：枝肉重量ベース。

競争力が低下したこと、日本や韓国向けについて米ドル高の傾向が継続したことなどがある。また、中国向けについては、26年5月15日に米国内の牛肉輸出認可施設の更新が行われたが^(注3)、同月は373トン（同82.7%減）にとどまっている。

（注3）5年ごとの認可登録の更新時期を迎えていた2025年3月以降、GACCによる牛肉の輸出施設の大部分について未更新の状況が続いていた。詳細については、海外情報「米中は農畜産物貿易の拡大に合意、牛肉輸出認可施設の登録も更新（米国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004361.html）をご覧ください。

（調査情報部）

EU

26年4月も牛肉生産量の減少傾向が続く

26年4月の牛肉生産量、前年同月比5.3%減

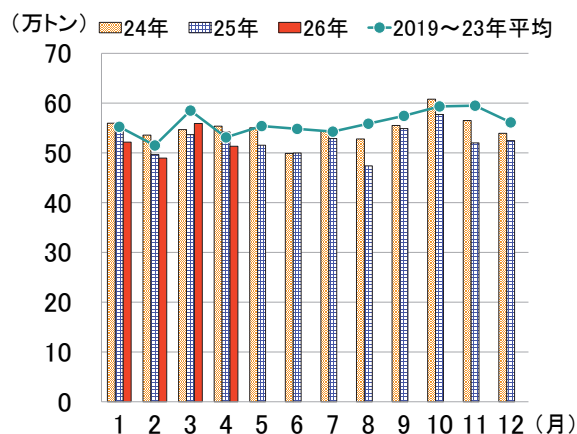
欧州委員会によると、2026年4月の牛肉生産量（EU27カ国）は51万3270トン（前年同月比5.3%減）とやや減少した（図1）。飼料価格の下落ともと牛の供給不足による肥育の長期化から、1頭当たり枝肉重量は304.7キログラム（同1.6%増）とわずかに増加したものの、飼養頭数の減少により牛と畜頭数が168万4720頭（同6.8%減）とかなりの程度減少したことが影響した。同年1～4月の累計生産量でも、前年同期比2.2%減とわずかに減少した。

EU全体の生産量の減少要因について、アイルランドの政府機関は、規制の厳格化や高齢化した生産者の離農による影響のほか、一部加盟国において、以前発生したブルータングによる繁殖障害や子牛の事故率の上昇といった影響が25年以降も継続しているためと分析している。

欧州委員会は、26年7月6日に公表した農畜産物の短期的見通しの中で、繁殖雌牛の減少が続いていることから、26年の牛肉生産量が前年比2.2%と減少するだけでなく、27年も減少傾向が続く可能性があると予測している^(注1)。

（注1）詳細については、海外情報「欧州委員会の2026年見通し、生乳は増産、豚肉は前年並み、牛肉は減産の予測（EU）」（https://alic.go.jp/chosa-c/joho01_004398.html）をご参照ください。

図1 牛肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

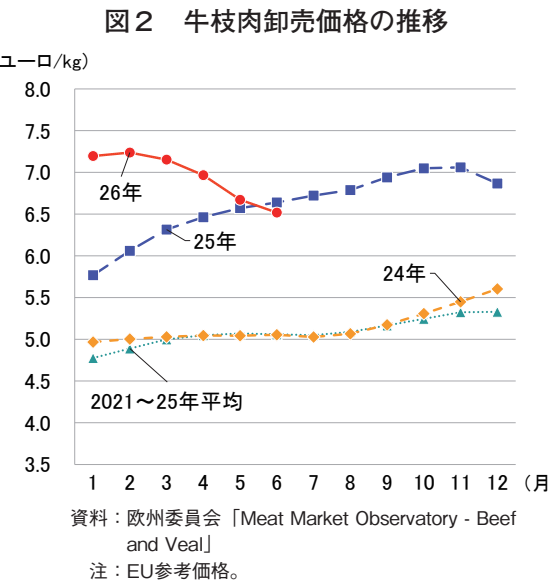
注2：枝肉重量ベース。

26年6月の枝肉卸売価格、前年同月を下回る

2026年6月の牛枝肉平均卸売価格^(注2)は、1キログラム当たり6.52ユーロ（1217円、1ユーロ：186.62円^(注3)、前年同月比1.8%安）と高値で推移しているものの、26カ月ぶりに前年同月を下回った（図2）。欧州委員会は、経済情勢が不安定な中、消費者が

高値の続く牛肉を敬遠して需要が抑制されたためと分析している。

(注2) 若雄牛(A)、去勢牛(C)および若齢牛(Z)のうち枝肉の格付けが上(R)、枝肉の脂肪の付着度が平均的(5段階中3)なものの平均価格(A/C/Z-R3)。
(注3) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年7月末TTS相場。



26年1～5月の牛肉輸出量は減少、輸入量は増加

2026年1～5月の牛肉輸出量は、18万3574トン（前年同期比3.1%減）とやや減少した（表1）。前年1～5月の輸出量は24年同期比でかなりの程度減少したが、域内の飼育頭数の減少が続き、今年になっても牛肉供給量が減少している。このため、品目別の輸出量を見ると、冷蔵牛肉は前年同期比2.7%増にとどまり、冷凍牛肉は同17.6%減となった。また、主要輸出先である英国においては、豪州やニュージーランドとの自由貿易協定による影響で両国からの輸入が増えており、これにより豪州産牛肉などとの競争が激化した可能性があるとの欧州委員会は分析している。

また、同期間の牛肉輸入量は、13万7881トン（同23.3%増）と大幅に増加した（表2）。これを品目別に見ると、冷蔵牛肉が

表1 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)							
品目	輸出先	2025年 5月	26年 5月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～5月)	26年 (1～5月)	前年同期比 (増減率)
冷蔵	英国	12,592	10,912	▲13.3%	63,798	53,337	▲16.4%
	トルコ	5,366	7,474	39.3%	25,403	35,505	39.8%
	アルジェリア	1,825	2,241	22.8%	14,110	13,775	▲2.4%
	ノルウェー	471	2,195	366.0%	2,155	9,972	362.7%
	ボスニア・ヘルツェゴビナ	2,457	2,209	▲10.1%	10,282	9,079	▲11.7%
	その他	3,847	3,784	▲1.6%	19,081	16,820	▲11.8%
	合計	26,558	28,815	8.5%	134,829	138,488	2.7%
冷凍	英国	5,414	4,352	▲19.6%	26,972	22,387	▲17.0%
	日本	79	2,459	3012.7%	471	2,873	510.0%
	ガーナ	977	546	▲44.1%	2,909	2,160	▲25.7%
	カナダ	632	385	▲39.1%	2,937	2,074	▲29.4%
	香港	562	460	▲18.1%	1,991	1,727	▲13.3%
	その他	4,336	2,529	▲41.7%	19,428	13,865	▲28.6%
	合計	12,000	10,731	▲10.6%	54,708	45,086	▲17.6%
冷蔵・冷凍計		38,558	39,546	2.6%	189,537	183,574	▲3.1%

資料：「Global Trade Atlas」
注1：HSコードは、冷蔵が0201、冷凍が0202。
注2：2026年5月日本向け冷凍牛肉輸出货量2,459トン（主にイタリアから）について詳細不明。

同19.2%増、冷凍牛肉が同30.2%増といずれも大幅に増加した。域内の供給量が減少し、高値が継続していることで輸入が増加して

おり、特に加工用として使用される低価格部位に対する輸入需要が拡大している。

表2 輸入先別牛肉輸入量の推移

(単位：トン)

品目	輸出先	2025年 5月	26年 5月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～5月)	26年 (1～5月)	前年同期比 (増減率)
冷蔵	英国	4,648	4,088	▲12.0%	21,375	25,077	17.3%
	アルゼンチン	3,571	5,303	48.5%	19,582	22,014	12.4%
	ウルグアイ	1,592	1,313	▲17.5%	11,320	12,063	6.6%
	ブラジル	1,520	3,054	100.9%	6,807	11,949	75.5%
	米国	1,035	1,144	10.5%	5,442	5,717	5.1%
	その他	1,219	1,554	27.5%	5,939	7,190	21.1%
	合計	13,585	16,456	21.1%	70,465	84,010	19.2%
冷凍	ブラジル	2,069	2,761	33.4%	18,381	29,290	59.3%
	英国	1,903	1,292	▲32.1%	8,258	8,705	5.4%
	ウルグアイ	569	477	▲16.2%	5,547	5,988	8.0%
	ナミビア	325	960	195.4%	1,708	3,392	98.6%
	アルゼンチン	202	259	28.2%	3,146	2,212	▲29.7%
	その他	966	319	▲67.0%	4,339	4,284	▲1.3%
	合計	6,034	6,068	0.6%	41,379	53,871	30.2%
冷蔵・冷凍計		19,619	22,524	14.8%	111,844	137,881	23.3%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、冷蔵が0201、冷凍が0202。

(調査情報部)

豪州

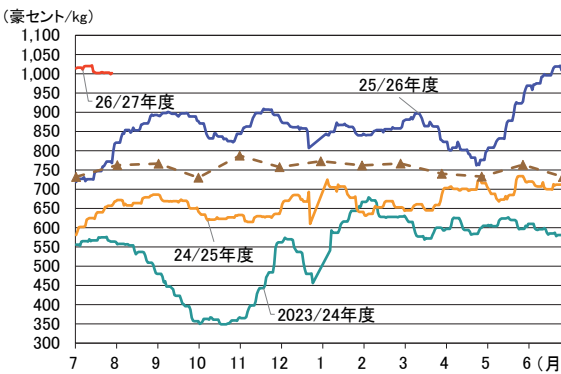
牛価格は高値を維持するも、主要輸出市場で関税措置の影響が顕在化

高水準を維持する若齢牛価格、下落を不安視する声高まる

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、2026年7月28日時点で1キログラム当たり1002豪セント（1152円：1豪ドル＝114.99円^{（注1）}）と、1000豪セント以上の高水準で推移している（図1）。

5月からの継続的な降雨により、牧草肥育（グラスフェッド）業者の需要が継続しており、牛価格の高止まりの要因となっている。

図1 EYCI価格の推移



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：年度は7月～翌6月。

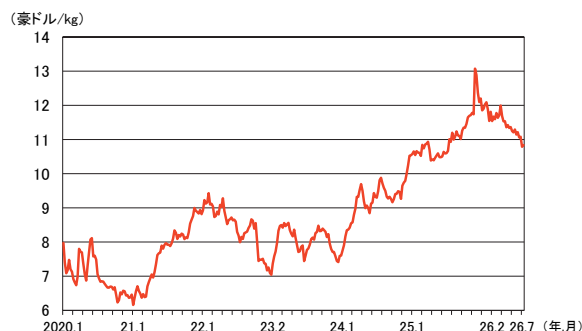
注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格（枝肉重量ベース）。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

現地アナリストによると、と畜頭数が堅調な中で牛価格が上昇している現状は、牛の供給ひっ迫に伴う価格上昇という従来のパターンとは異なり、高い輸出需要に支えられたもので、生産者にとって最高の市場環境であるとされる。

一方、1) エルニーニョ現象の発生による7月以降の少雨、2) 主要輸出先である中国・韓国向けの牛肉に追加関税が課されたことによる両市場向けの供給減少と、他市場でのブラジル産牛肉との競争激化などが予測されることから、価格下落の懸念が高まっている。実際に、最終製品価格の軟化傾向が報告されており、米国向け加工用牛肉（90CL：赤身率90%のひき肉）価格は、昨年11月に記録した1キログラム当たり約13豪ドル（1495円）から、現在は約11豪ドル（1265円）まで下落している（図2）。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年7月末TTS相場。

図2 米国向け加工用牛肉（CL90）輸出価格の推移



資料：MLA「United States Imported Beef Prices」

注1：暦年・各週のデータ。

注2：CIF価格（商品代金に加え、海上運賃と保険料を加味した価格）。データには豪州産牛肉に加え、NZ産牛肉が含まれる。

26年6月の牛肉輸出量、中国向けが急減も全体では高水準を維持

豪州農林水産省（DAFF）によると、2026年6月の牛肉輸出量は14万6798トン（前年同月比9.1%増）と、同年5月の過去最高記録（15万2438トン）からは3.7%減少したものの、高水準を維持している（表）。

輸出先別に見ると、米国向けは4万9207トン（同39.2%増）と大幅に増加し、単月として過去最高を記録した。中国が豪州産

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2025年 6月	26年 6月	前年同月比 (増減率)	26年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)
米国	35,343	49,207	39.2%	243,198	19.8%
韓国	19,343	32,599	68.5%	142,003	39.9%
日本	21,876	24,012	9.8%	124,126	5.4%
東南アジア	13,578	11,520	▲15.2%	56,234	▲16.2%
中国	27,265	7,814	▲71.3%	141,145	9.2%
中東	3,132	5,591	78.5%	19,311	8.3%
E U	2,723	2,894	6.3%	15,566	52.9%
その他	11,336	13,161	16.1%	63,796	15.0%
輸出量合計	134,596	146,798	9.1%	805,379	14.7%

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つ（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラアス・アル＝ハイマ））。

牛肉の輸入に対するセーフガード(以下「SG」という)枠超過に伴う55%の追加関税^(注2)を課したことで、中国向け輸出の拡大に制約が生じる中、米国市場が有力な輸出先として機能したとみられている。中国向けを見ると、7814トン(同71.3%減)と大幅に減少しており、現地アナリストは、今後の輸出は割当枠の対象外となる内臓などの品目が中心になるという見方を示している。

米国向けと同様に、韓国向けも3万2599トン(同68.5%増)と大幅に増加し、単月として過去最高を記録した。中国向け輸出の減少や、韓豪自由貿易協定(FTA)における豪州産牛肉の輸入に対する特別SG枠^(注3)発動を見越した駆け込み需要が、今回の記録更新の背景にある。韓国関税庁は26年7月21日、豪州産牛肉の輸入数量が同SG枠を超過したことを発表しており、今後は関税率が24%に引き上げられることから、輸出への影響が懸念されている。

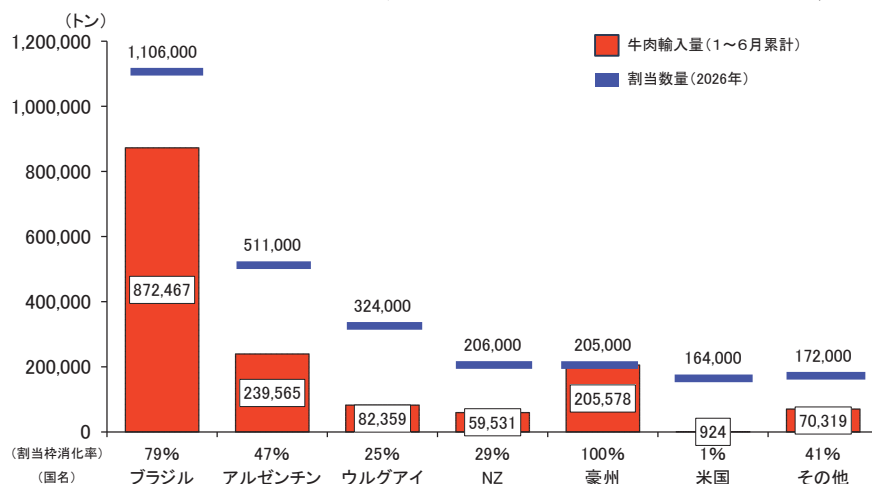
また、業界の最も大きな懸念は、ブラジル産牛肉の米国市場へのさらなる流入にある。

MLAによると、6月末時点で中国のブラジル産牛肉の輸入に対するSG枠の消化率は79%に達しており、未通関分を含めると、基準数量を超過するとの見方も出ている(図3)。ブラジル産牛肉の中国向け輸出の減少分が低価格で米国市場に流入した場合、豪州産牛肉の最大市場である米国における競争が激化し、輸出全体に悪影響を及ぼす可能性が指摘されている。そのような中、日本、インドネシア、中東、英国、カナダなどの代替市場への関心が高まっている。日本向けも2万4012トン(同9.8%増)と増加基調にあるものの、中国および韓国向け輸出の減少に加え、ブラジル産牛肉との競合によって生じる需給緩和の影響を他市場がどの程度吸収できるかが、今後の輸出動向を見通す上での重要なポイントになると考えられる。

(注2) 詳細については、海外情報「中国、豪州産牛肉に対しセーフガードを発動(豪州)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004383.html)をご参照ください。

(注3) 詳細については、海外情報「韓豪FTAは2014年内に発効予定、豪州牛肉産業に恩恵(豪州)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_001150.html)をご参照ください。

図3 中国のSG措置に基づく各国の割当数量および牛肉輸入量(1～6月)



資料: MLA「Weekly US Imported Beef Market Report」を基に機構作成
注: 中国海関総署の輸入データに基づいており、豪州側の輸出量とは異なる。

(調査情報部)

NZ牛肉輸出は米国向け中心に拡大

26年5月の牛と畜頭数は前年同月比20.1%増

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2026年5月の牛と畜頭数は34万2637頭（前年同月比20.1%増）と前年同月を大幅に上回った（図1）。と畜頭数の内訳を見ると、経産牛が19万5498頭（同16.3%増）、去勢牛が5万5517頭（同19.8%増）、未經産牛が5万5148頭（同21.2%増）、雄牛が3万6474頭（同43.1%増）と、いずれも大幅に増加した。一方、25/26年度（10月～翌9月）5月までの累計では、190万3433頭（前年同期比1.9%減）とわずかに減少した。

これは、26年4、5月が前年同期のと畜頭数減少の反動により増加した一方で、1）酪農部門では、生産者支払乳価が高水準で推移したため経産牛の保留傾向が強まったこと、2）肉牛部門では、牧草生育が順調であり、肉牛の増体のため保留傾向が強まったこと一などから、25/26年度前半のと畜頭数が減少したことによるものとみられる。

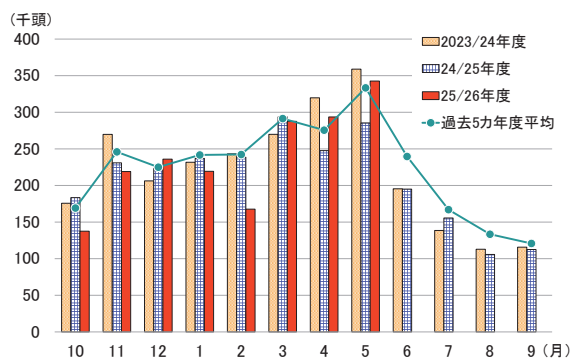
26年6月の牛肉輸出量は前年同月比24.7%増

Stats NZによると、2026年6月の牛肉輸出量は5万1344トン（前年同月比24.7%増）と前年同月を大幅に上回った（表）。業界団体であるビーフ・アンド・ラム・ニュージーランド（BLNZ）によると、世界的な赤身肉需要の高まりや、と畜頭数の増加が背景にあるとされている。輸出先別に見ると、米国向けは2万2774トン（同40.1%増）、中国向けは1万4560トン（同35.6%増）と、いずれも大幅に増加した。

BLNZによると、米国向けは、同国内で赤身牛肉の需要が旺盛な一方、牛群規模は依然として低水準であるため牛肉需給がひっ迫しており、加工用原料としてNZ産牛肉への輸入需要が高まっているとされる。一方、中国向けについては、6月は増加しているものの、26年1月から適用された中国による新たなセーフガード措置^{（注）}が輸出拡大の抑制要因になるとみられている。

（注）詳細については、海外情報「中国の新たなセーフガード措置に対する豪州の反応（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004262.html）をご参照ください。

図1 牛と畜頭数の推移



資料：Stats NZ

注：年度は10月～翌9月。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名		2025年 6月	26年 6月	前年同月比 (増減率)	25/26年 (10月～翌6月)	前年同期比 (増減率)
米国		16,252	22,774	40.1%	158,141	3.9%
	冷蔵	804	988	22.8%	8,195	▲1.4%
	冷凍	15,447	21,786	41.0%	149,946	4.2%
中国		10,737	14,560	35.6%	88,244	▲11.0%
	冷蔵	307	491	60.1%	4,160	6.5%
	冷凍	10,431	14,069	34.9%	84,084	▲11.7%
カナダ		2,989	3,688	23.4%	31,038	15.7%
	冷蔵	263	139	▲47.4%	2,161	50.8%
	冷凍	2,725	3,549	30.2%	28,878	13.7%
日本		2,462	2,225	▲9.6%	17,605	▲13.1%
	冷蔵	700	657.9	▲6.0%	4,993	▲11.1%
	冷凍	1,762	1,567	▲11.0%	12,611	▲13.9%
韓国		1,072	1,684	57.0%	13,417	▲2.4%
	冷蔵	—	—	—	13	611.9%
	冷凍	1,072	1,684	57.0%	13,404	▲2.5%
その他		7,664	6,414	▲16.3%	63,834	12.9%
	冷蔵	1,312	1,361	3.7%	15,501	30.9%
	冷凍	6,352	5,053	▲20.5%	48,347	8.1%
合計		41,177	51,344	24.7%	372,279	1.0%
	冷蔵	3,386	3,636	7.4%	35,010	12.6%
	冷凍	37,790	47,708	26.2%	337,269	▲0.1%

資料：Stats NZ「Overseas merchandise trade datasets」

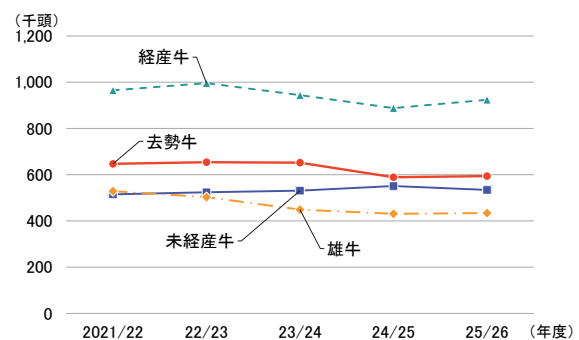
注1：積船積重量ベース。

注2：年度は10月～翌9月。

25/26年度の輸出仕向け牛と畜頭数は増加見込み

BLNZが公表した直近の2025/26年度牛肉需給見通しによると、同年度の輸出仕向け牛と畜頭数は249万頭（前年度比1.1%増）とわずかな増加が見込まれている（図2）。この要因としてBLNZは、1）酪農部門では、24/25年度の生産者支払乳価が高い水準で推移したことで保留されていた経産牛が、25/26年度に出荷されること、2）肉牛部門では、24/25年度に記録的水準となった未經産牛のと畜頭数は減少する一方、去勢牛と雄牛のと畜頭数は増加すること—を挙げている。

図2 輸出仕向け牛と畜頭数



資料：BLNZの資料を基に機構作成

注1：と畜頭数の2024/25年度は推定値、25/26年度は予測値。

注2：年度は10月～翌9月。

(調査情報部)

豚 肉

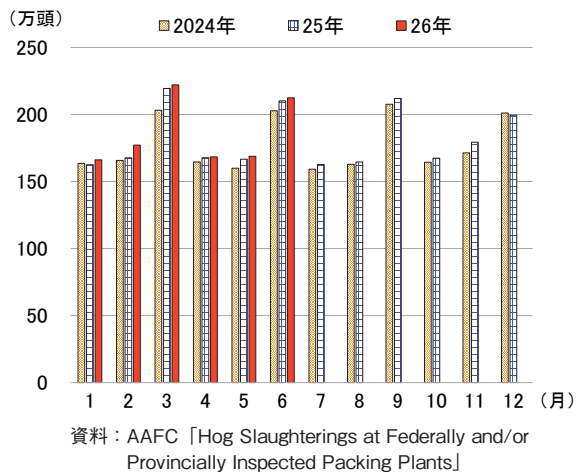
カナダ

対米生体豚輸出が増加傾向で推移する一方、豚肉輸出はやや減少

26年6月の豚と畜頭数は前年同月比1.1%増

カナダ農務・農産食品省（AAFC）によると、2026年6月の豚と畜頭数は、212万4000頭（前年同月比1.1%増）とわずかに増加した（図1）。牛肉需給のひっ迫を背景とした牛肉価格の高騰が続く中、相対的に手頃な価格で購入できる豚肉への需要が堅調に推移しており、豚肉市場を下支えしている。

図1 豚と畜頭数の推移（月次）



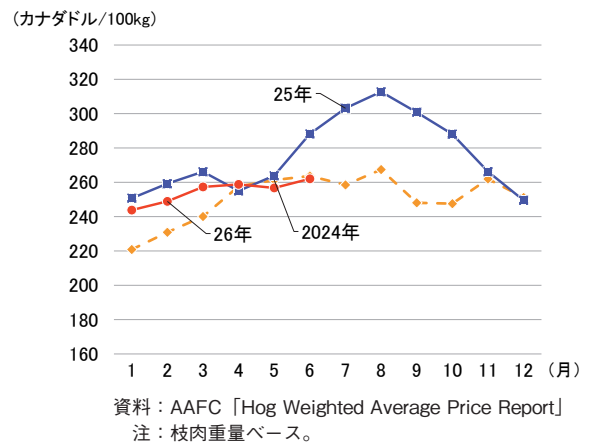
26年6月の肥育豚価格、前年同月比9.1%減も堅調に推移

AAFCによると、2026年6月の肥育豚価格は、100キログラム当たり262カナダドル（1キログラム当たり305円：1カナダドル＝116.27円^{（注1）}、前年同月比9.1%減）とかなりの程度下落した（図2）。これは、

25年夏場にかけて高値で推移した米国の肥育豚価格に連動した^{（注2）} ことに加え、カナダドル安を背景に価格が高騰した前年の反動によるものである。なお、同省は、26年は引き続き需要が堅調に推移しており、飼料価格も抑えられていることから、豚肉生産は好調であるとしている。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年7月末TTS相場。
（注2）カナダの肥育豚価格は一般的に、米国の肥育豚価格に基づいて算定されるため、同価格の変動による影響を受ける。詳細については、『畜産の情報』2019年11月号「カナダ豚肉産業にみる多様性と肥育豚価格の算定方式をめぐる議論（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_000834.html）」をご参照ください。

図2 肥育豚価格の推移



26年1～5月の対米生体豚輸出は前年同期比8.5%増

カナダ統計局（Statistics Canada）によると、2026年5月のカナダから米国への生体豚輸出頭数は、59万頭（前年同月比0.3%減）と前年同月並みとなった（図3）。一方、

26年1～5月の累計では、前年同期比8.5%増とかなりの程度増加した。増加した背景には、中国向け輸出減少などによる国内供給過剰に加え、カナダ国内の処理能力の限界や米国内における強い豚肉需要がある。

26年5月の豚肉輸出量、前年同月比2.9%減

カナダ統計局によると、2026年5月の豚肉輸出量は8万8968トン（製品重量ベース、前年同月比2.9%減）とわずかに減少し、同年1～5月の累計では43万8173トン（前年同期比3.2%減）とやや減少した（表）。

5月の輸出量を輸出先別に見ると、最大の輸出先である日本向けは2万5557トン（前年同月比11.7%減）とかなり大きく減少した一方で、米国・メキシコ・カナダ協定（USMCA）下である米国およびメキシコ向けは、2万5160トン（同17.2%増）、1万5353トン（同24.3%増）といずれも大幅に伸びている。

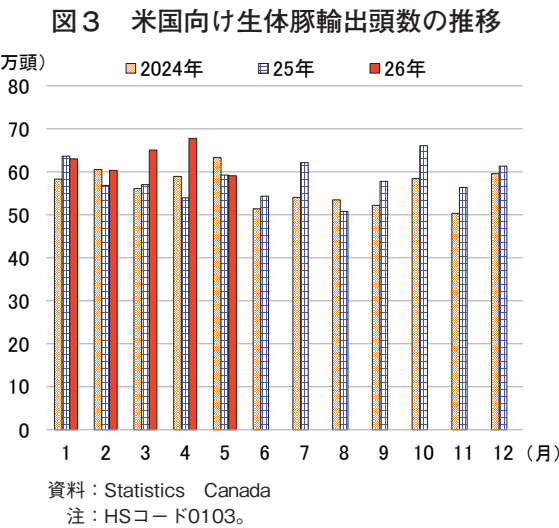


表 輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2025年 5月	26年 5月	前年同月比 (増減率)	構成比	26年	前年同期比 (増減率)
					(1～5月)	
日本	28,948	25,557	▲11.7%	28.7%	125,180	▲5.8%
米国	21,468	25,160	17.2%	28.3%	122,250	12.5%
メキシコ	12,348	15,353	24.3%	17.3%	75,235	2.2%
中国	3,451	5,815	68.5%	6.5%	24,008	1.3%
韓国	5,926	5,715	▲3.6%	6.4%	28,858	3.2%
台湾	2,662	2,628	▲1.3%	3.0%	17,413	▲5.4%
コロンビア	1,858	2,425	30.5%	2.7%	10,507	▲0.3%
フィリピン	8,748	2,344	▲73.2%	2.6%	14,744	▲57.0%
その他	6,216	3,972	▲36.1%	4.5%	19,979	3.6%
合計	91,623	88,968	▲2.9%	100.0%	438,173	▲3.2%

資料：Statistics Canada
注1：HSコード0203。
注2：製品重量ベース。

(調査情報部)

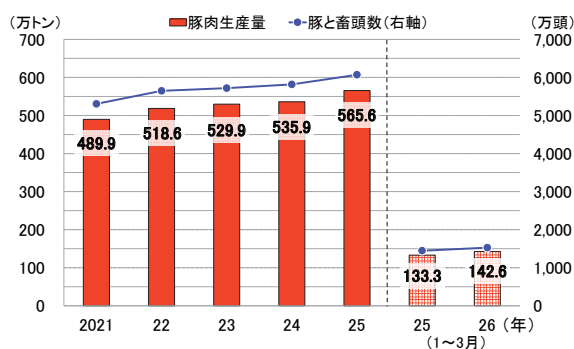
ブラジル

26年1～6月の豚肉輸出は好調ながら、生体豚取引価格は下落が続く

26年1～3月の豚肉生産量は前年同期比6.9%増

ブラジル地理統計院（IBGE）によると、2026年1～3月の豚と畜頭数は1527万2000頭（前年同期比5.5%増）、豚肉生産量は142万6000トン（同6.9%増）と、いずれも前年同期を上回って推移した（図1）。

図1 豚肉生産量および豚と畜頭数の推移



資料：IBGE

注1：枝肉重量ベース。

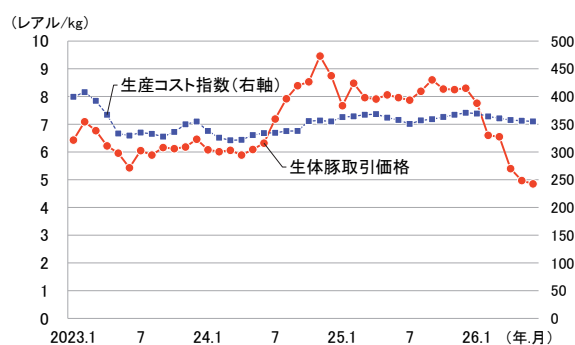
注2：2026年は速報値。

ためとしている。

また、ブラジル農牧研究公社（EMBRAPA）によると、同月の生産コスト指数は355.05（同0.7%減）と、前年同月をわずかに下回った。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年7月末TTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

図2 生体豚取引価格および生産コスト指数



資料：CEPEA（生体豚取引価格）、EMBRAPA（生産コスト指数）

注1：生体豚取引価格はサンタカタリーナ州のもの。

注2：生産コスト指数は2005年1月を100とする。

注3：図中の最新のマーカーは、26年6月を示す。

26年6月の生体豚取引価格は前年同月比39.1%安

サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）によると、2026年6月のブラジルの生体豚取引価格（サンタカタリーナ州）は、1キログラム当たり4.85レアル（152円：1レアル＝31.24円^{（注1）}、前年同月比39.1%安）と、前年同月を大幅に下回った（図2）。26年1月以降、6カ月連続で下落している要因について、CEPEAは、国内の豚肉生産量が増加する一方、内需は伸び悩んでおり、外需の拡大でも供給増を吸収しきれていない

26年1～6月の豚肉輸出量は前年同期比8.5%増

ブラジル開発商工サービス省貿易局（SECEX）によると、2026年1～6月の豚肉輸出量は68万3803トン（前年同期比8.5%増）と前年同期をかなりの程度上回った（表）。

輸出先第1位のフィリピン向けは、同国内で発生しているアフリカ豚熱（ASF）の影響が継続していることから、16万8670トン（同20.4%増）と大幅に増加した。また、日本向けも、9万1858トン（同66.9%増）

と大幅に増加した。日本は、スペインでのASF発生確認を受け、同国から輸入される豚肉等の輸入一時停止措置を講じており^(注2)、これにより、ブラジル産などの輸入量が増加しているものとみられる。

(注2) 詳細については、海外情報「スペインでアフリカ豚熱発生を確認、野生イノシシが感染（スペイン）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004242.html)をご参照ください。

表 輸出先別冷蔵・冷凍豚肉輸出の推移

国名	2025年（1～6月）			26年（1～6月）			前年同期比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/kg）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/kg）	輸出量	輸出額	単価
フィリピン	140,141	338,554	2.42	168,670	415,565	2.46	20.4%	22.7%	2.0%
日本	55,022	190,531	3.46	91,858	308,219	3.36	66.9%	61.8%	▲3.1%
チリ	54,968	138,053	2.51	59,972	137,922	2.30	9.1%	▲0.1%	▲8.4%
中国	84,611	179,828	2.13	54,706	116,718	2.13	▲35.3%	▲35.1%	0.4%
香港	54,974	142,349	2.59	40,451	97,043	2.40	▲26.4%	▲31.8%	▲7.4%
アルゼンチン	28,492	79,967	2.81	29,657	77,097	2.60	4.1%	▲3.6%	▲7.4%
シンガポール	41,038	119,259	2.91	29,486	80,504	2.73	▲28.1%	▲32.5%	▲6.0%
メキシコ	30,585	72,178	2.36	28,731	66,567	2.32	▲6.1%	▲7.8%	▲1.8%
ウルグアイ	25,740	71,605	2.78	26,401	69,014	2.61	2.6%	▲3.6%	▲6.0%
ベトナム	22,738	57,999	2.55	22,203	52,308	2.36	▲2.4%	▲9.8%	▲7.6%
その他	92,062	208,266	2.26	131,667	295,038	2.24	43.0%	41.7%	▲0.9%
合計	630,371	1,598,590	2.54	683,803	1,715,996	2.51	8.5%	7.3%	▲1.0%

資料：SECEX

注1：HSコード0203。

注2：製品重量ベース。

（調査情報部）

牛乳・乳製品

米 国

26年6月の乳用経産牛飼養頭数は前年同月比2.0%増、33年ぶりの高水準

26年6月の乳用経産牛飼養頭数、前年同月比2.0%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2026年6月の乳用経産牛飼養頭数は967万7000頭（前年同月比2.0%増）となり、26年1月以降、33年ぶり

の高水準で推移している（図1）。後継牛の不足や肉用種との交雑種子牛の販売による収益増を背景に乳牛の淘汰^{とうた}が抑制され、飼養頭数は増加傾向にある。同月の生乳生産量は、乳用経産牛飼養頭数および1頭当たり乳量（同0.3%増）の増加により、894万トン（同2.3%増）とわずかに増加した（図2）。

図1 乳用経産牛飼養頭数の推移

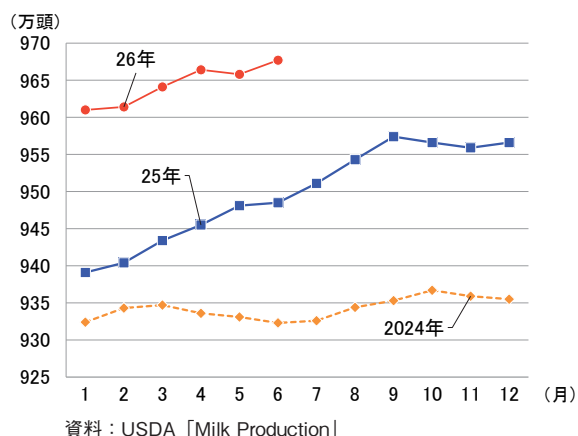


図3 酪農マージンの推移

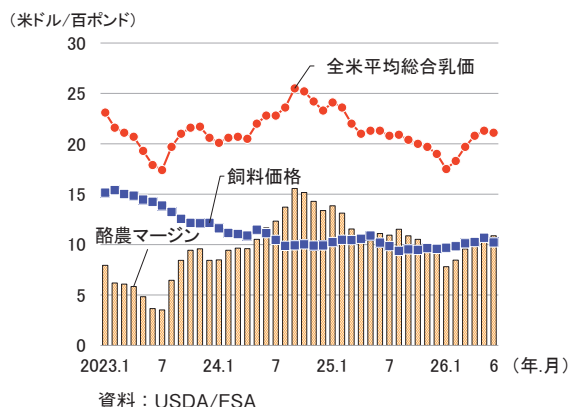
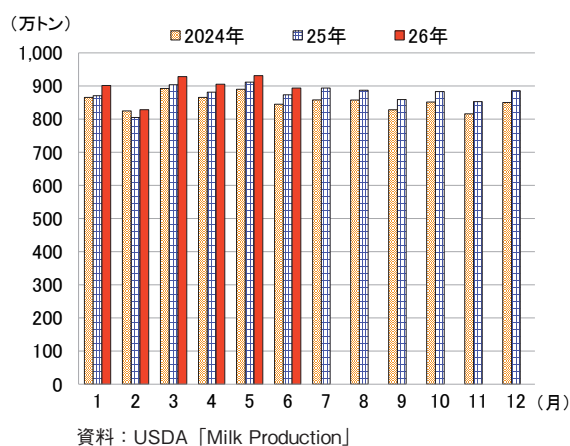


図2 生乳生産量の推移



26年5月の乳製品輸出量、多くの製品で前年同月を上回る

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2026年5月の乳製品輸出量は、乳脂肪分ベースでは前年同月比34.8%増と大幅に、無脂乳固形分ベースでは同11.8%増とかなり大きく、それぞれ増加した。

品目別に見ると、チーズやホエイ、バターなど多くの製品において、前年同月を上回った（表）。チーズは、主要輸出先であるメキシコや韓国の需要増から、6万1410トン（前年同月比19.1%増）と大幅に増加した。ホエイは、中国による追加関税の影響^{（注3）}により落ち込んでいた同国向け輸出の回復により、2万7453トン（同2.1倍）となった。価格下落により輸出先が多様化しているバターは、中東・北アフリカ、カナダ、メキシコ、豪州向けなどがけん引し、9954トン（同89.4%増）と大幅に増加した。一方、脱脂粉乳は、価格高騰の影響からメキシコや東南アジア向けの輸出が減少し、4万9669トン（同19.8%減）と大幅に減少した。

26年6月の全米平均総合乳価、前年同月比0.9%安

米国農務省農場サービス局（USDA/FSA）によると、2026年6月の全米平均総合乳価は、生乳100ポンド当たり21.1米ドル（1キログラム当たり75円：1米ドル＝161.72円^{（注1）}、前年同月比0.9%安）とわずかに下落した（図3）。同月の酪農マージン^{（注2）}は、乳価の下落に伴い同10.88米ドル（同39円、同2.0%減）とわずかに減少した。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均為替相場」の2026年7月末TTS相場。

（注2）酪農家のセーフティーネット制度である酪農マージン保障プログラム（DMC）で算定される全米平均総合乳価と飼料費の差額としての収益。DMCでは、酪農マージンが発動基準を下回った場合、補填が発動される。

（注3）中国は米国による追加関税措置への報復として、2025年4～5月にかけて乳製品を含む米国産輸入品に追加関税を課した。これにより25年5月時点で、ホエイには127%の関税が課せられていた。

表 主要乳製品輸出力の推移

(単位：トン)

品目	2025年 5月	26年 5月	前年同月比 (増減率)	26年 (1～5月)	前年同期比 (増減率)
チーズ	51,550	61,410	19.1%	299,107	23.7%
脱脂粉乳	61,953	49,669	▲19.8%	273,677	0.1%
乳糖	29,281	38,606	31.8%	169,312	6.3%
ホエイ	12,989	27,453	111.4%	119,672	55.7%
WPC	8,389	10,162	21.1%	45,095	▲9.9%
バター	5,255	9,954	89.4%	50,306	104.7%

資料：USDA「Dairy Data」

注：製品重量ベース。

(調査情報部)

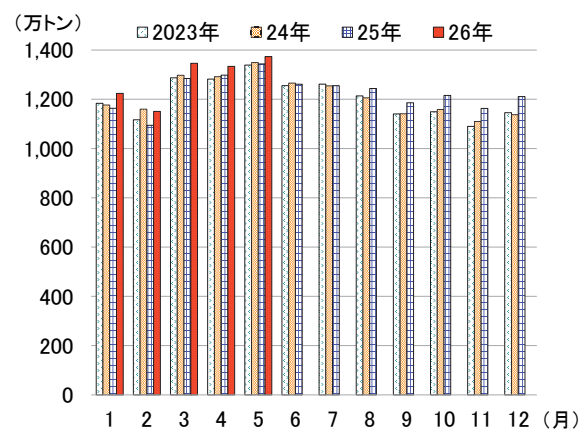
E U

生乳出荷量の増加に伴い、バターと脱脂粉乳の生産量が増加

26年5月の生乳出荷量は前年同月比
2.2%増

欧州委員会によると、2026年5月の生乳出荷量（EU27カ国）は前年同月比2.2%増の1373万トンとなり、前年同月をわずかに上回った（図1、表）。主要生産国の多くで前年同月を上回った一方、フランスは217万トン（同1.4%減）、アイルランドは120万トン（同1.6%減）と、ともに前年同月をわずかに下回った。フランスの全国酪農経済

図1 生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

表 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：万トン)

国名	2025年 5月	26年 5月	前年同月比 (増減率)	26年 (1～5月)	前年同期比 (増減率)
ドイツ	285	303	6.3%	1,439	6.6%
フランス	220	217	▲1.4%	1,071	3.3%
ポーランド	122	127	3.8%	598	3.3%
オランダ	121	125	3.6%	608	5.0%
アイルランド	122	120	▲1.6%	365	▲0.7%
その他	474	482	1.7%	2,346	3.3%
合計	1,343	1,373	2.2%	6,427	3.9%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

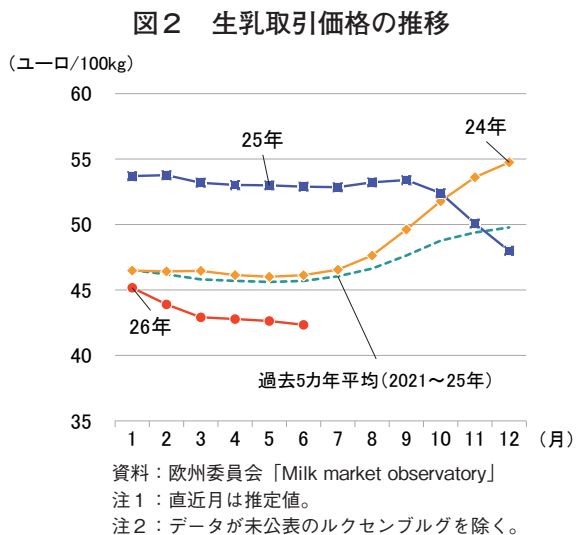
注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

センター（CNIEL）は、ブルータングによる受胎率の低下に伴う分娩時期のずれに加え、5月末の熱波がフランスの生乳出荷量に影響を及ぼした可能性があるとしている。また、アイルランドについて、英国農業・園芸開発委員会（AHDB）によると、25年末からの生乳取引価格の下落や中東情勢の影響による燃料価格の上昇に起因する収益性の悪化に加え、4月に同国全土で発生した農家などによる燃料価格抗議行動に伴う飼料供給や集乳の混乱が、生乳出荷量の減少につながった可能性があるとされている。

26年6月の生乳取引価格、直近3カ月は横ばいで推移

欧州委員会によると、2026年6月の生乳取引価格（EU27カ国平均）は、100キログラム当たり42.34ユーロ（1キログラム当たり79円：1ユーロ＝186.62円^{（注）}、前年同月比19.9%安）となった（図2）。乳製品価格の下落ペースが緩やかになったことから、25年第4四半期（10～12月）に比べ生乳取引価格の下落幅は縮小しており、直近3カ月はおおむね横ばいで推移している。

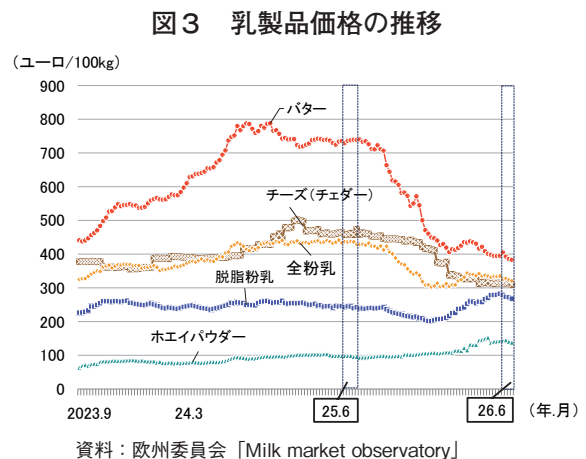


（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年7月末TTS相場。

バターおよび脱脂粉乳、生産量の増加を背景に価格が下落

欧州委員会によると、2026年6月28日の週の乳製品価格（EU27カ国平均）は、バターが100キログラム当たり383ユーロ（1キログラム当たり715円、前年同期比48.1%安）、全粉乳が同321ユーロ（同599円、同25.2%安）、チーズが同309ユーロ（同577円、同34.7%安）となり、いずれも前年同期を大幅に下回った（図3）。

欧州委員会によると、生乳出荷量の増加に伴って保存性の高いバターへの仕向けが増え、26年1～4月の域内のバター生産量は80万5000トン（前年同期比9.7%増）とかなりの程度増加した。また、米国をはじめとする主要生産国でもバター生産量が増加しており、国際市場における6月のバター価格の下落を受けて、EU域内のバター価格も6月を通じてやや下落した。脱脂粉乳については同268ユーロ（同500円、同10.6%高）と、前年同期に比べ依然として高水準を維持している。一方、26年1～4月の生産量が49万9000トン（同11.7%増）とかなり大きく



増加したことや国際価格の下落を背景に、同
価格は6月を通じてやや下落した。

(調査情報部)

N Z

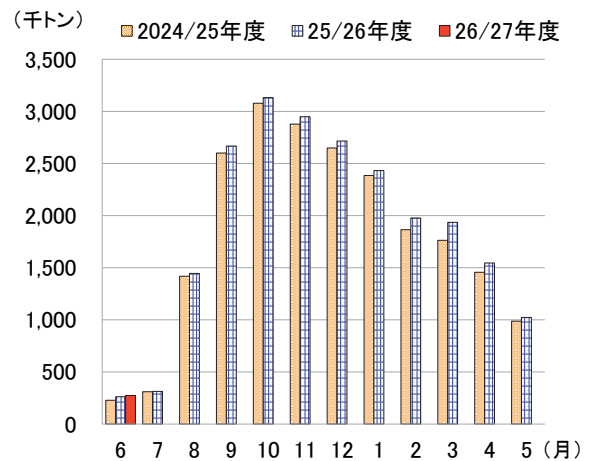
26/27年度の生乳生産は好調スタートも、乳価は引き下げへ

26年6月の生乳生産量、前年同月比4.6%増

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2026/27年度（6月～翌5月）生乳生産の開始となる26年6月の生乳生産量は27万4000トン（前年同月比4.6%増）と、14カ月連続で前年同月を上回った。6月としては過去最高を記録し、乾乳期ながら好調なスタートとなった（図1）。この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、高水準の生産者支払乳価や良好な牧草生育環境を背景に飼養頭数や酪農場数が増加し、生乳生産を押し上げたものと分析している。

今後の生乳生産の見通しについてNZXは、NZ全土で分娩期が順調に始まっていることを受け、生乳生産量の増加を見込む一方、7～8月は年間で降雨量が多い時期となることから、牧草生育環境の変化が生産動向に及ぼす影響を懸念している。

図1 生乳生産量の推移



資料：DCANZ「New Zealand Monthly Milk Production Report」

注：年度は6月～翌5月。

26年6月の乳製品輸出量、主要4品目で増加

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2026年6月の乳製品輸出量は、主要4品目でいずれも前年同月を上回った（表、図2）。品目別に見ると、脱脂粉乳はフィリピン、インドネシア向け、全粉乳はインド

表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

品目	2025年 6月	26年 6月	前年同月比 (増減率)
脱脂粉乳	21,522	32,931	53.0%
全粉乳	103,955	105,922	1.9%
バターおよびバターオイル	32,261	44,413	37.7%
チーズ	34,886	41,014	17.6%

資料：Stats NZ「Overseas merchandise trade datasets」

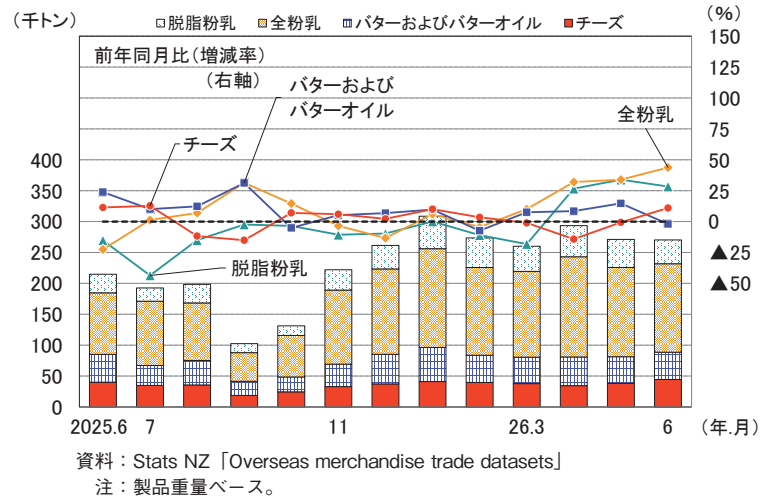
注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

ネシア、アラブ首長国連邦向け、バターおよびバターオイル、チーズは中国向けがいずれ

も大幅に増加したため、輸出量は前年同月を上回った。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



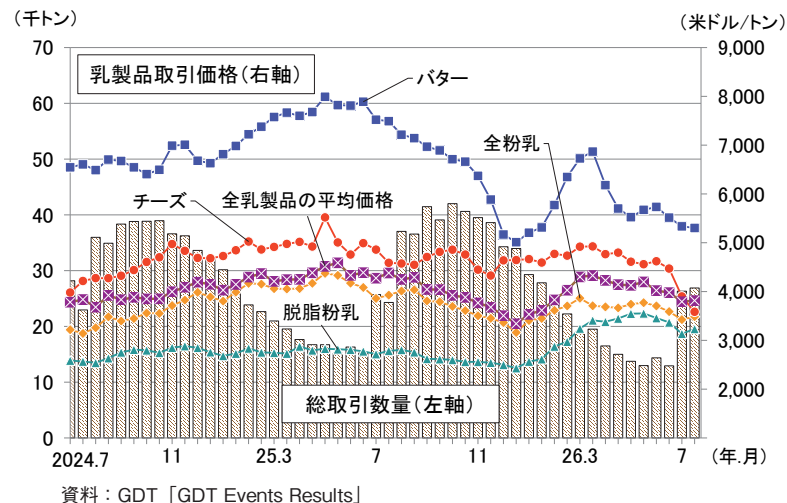
26年7月21日のGDT平均取引価格、脱脂粉乳、全粉乳が前回を上回る

2026年7月21日開催のGDT^(注1) 平均取引価格は、主要4品目のうち、脱脂粉乳と全粉乳が前回開催時(26年7月7日)を上回った(図3)。取引全体では、全乳製品の平均取引価格は1トン当たり3815米ドル(61万6962円、1米ドル＝161.72円^(注2)、前回比0.6%高)とわずかに上昇した。

NZXによると、NZなど主要乳製品生産地域での堅調な生産により供給が増加した一方で、欧州や米国で続く熱波が今後の供給拡大を抑制するとの懸念が、乳製品相場を下支える要因となったとしている。

このような中、NZ乳業最大手のフォンテラ社は26年7月13日、26/27年度の生産者支払乳価について、生乳の固形分^(注3) 1キログラム当たり平均0.5NZドル(48円：1NZドル＝96.37円^(注2))引き下げ、同9.25NZ

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



ドル（891円）に修正すると発表した。この理由について同社のアレン最高経営責任者は、NZなど主要乳製品生産地域で乳製品生産が堅調に推移したことから需給が緩和し、GDT平均価格が下落しているためと説明している。また、同氏は、NZでは好調なシーズン序盤を見込む一方、エルニーニョ現象やGDT平均価格の変動が今後の供給量や価格

動向に影響を及ぼす可能性があるとの見方を示している。

（注1）グローバルデイルートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年7月末TTS相場。
（注3）乳脂肪分および乳たんぱく質。

（調査情報部）

中国

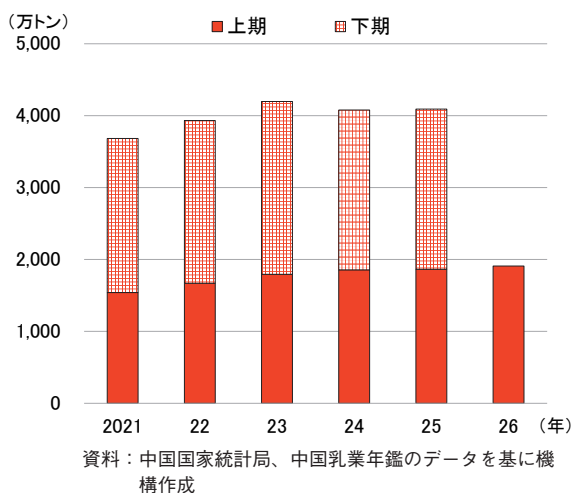
26年上期の生乳生産量は増加、生乳価格は下げ止まり

26年上期の生乳生産量、前年同期比2.4%増

中国国家统计局によると、2026年上期（1～6月）の生乳生産量は、1909万トン（前年同期比2.4%増）と前年同期からわずかに増加した（図1）。

中国の生乳生産量は、例年、上期に比べて下期（7～12月）が2～3割程度増加する傾向にあり、26年も同様に推移した場合、下期の生乳生産量は2200万トンを超え、年間では4200万トン程度になると見込まれる（注1）。

図1 生乳生産量の推移



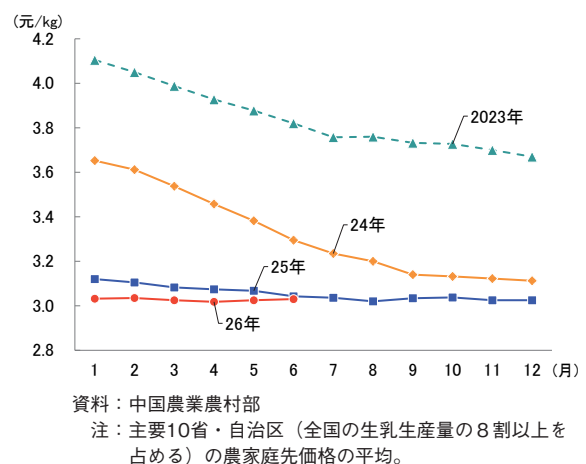
（注1）詳細については、海外情報「中国農業展望報告（2026－2035）を発表（牛乳・乳製品編）（中国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004379.html）をご参照ください。

26年6月の生乳価格、前年同月比0.4%安

中国農業農村部によると、2026年6月の生乳価格は1キログラム当たり3.03元（73円：1元＝24.11円（注2）、前年同月比0.4%安）とわずかに下回った（図2）。同国の生乳価格は25年6月以降、生乳価格は3.02～3.04元（73円程度）の間で推移しており、低位安定している。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年7月末TTS相場。

図2 生乳価格の推移



今後の見通しについて同部は、26年7月に公表した「農産物需給動向分析月報（2026年6月）」の中で、夏季の暑熱ストレスによる乳用牛1頭当たり乳量の減少などから、短期的には生乳生産量が減少する一方で、アイスクリームやミルクティーなどの乳製品需要が増加することで、生乳価格は小幅ながら上昇すると見込んでいる。

26年上期の乳製品輸入量、主要4品目で減少傾向

2026年上期の主要乳製品9品目の輸入量（製品重量ベース）は、4品目で前年同期を下回った（表）。現地関係者によると、国内需要の大部分を輸入に依存する脱脂粉乳

（前年同期比20.1%減）は、生乳生産量の増加に伴い乳製品生産量も増加したことで国産代替が進み、輸入量が大幅に減少した。一方で、チーズ（同24.8%増）とバター（同39.1%増）は、国内需要が拡大する中、国内生産のみでは需要を賄いきれず、輸入量は大幅に増加したとしている。また、同年4月に中国農業農村部が公表した「中国農業展望報告（2026－2035）^{（注1）}」によると、乳用牛1頭当たり乳量の向上により生乳生産量が増加し、乳製品生産量も増加することで国産品への代替が進み、26年の乳製品輸入量は減少（生乳換算で前年比4.1%減）すると見込まれている。

表 主な乳製品の品目別輸入量の推移

（単位：万トン）

品目	2024年	25年	26年 (1～6月)	前年同期比 (増減率)	【参考：輸入額】 前年同期比 (増減率)
全粉乳	41.0	38.4	28.1	10.8%	▲6.0%
脱脂粉乳	22.9	21.0	11.2	▲20.1%	▲25.2%
飲用乳	41.7	40.5	17.3	▲20.8%	▲21.3%
ミルクおよびクリーム	28.8	26.4	15.2	8.4%	▲0.2%
ヨーグルト	1.6	1.5	0.5	▲25.7%	▲22.1%
チーズ	17.3	19.7	12.2	24.8%	15.7%
バター	10.5	11.3	8.2	39.1%	▲1.1%
育児用調製粉乳	21.6	22.2	10.6	0.6%	0.5%
ホエイ	64.5	70.9	32.0	▲2.7%	6.3%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、全粉乳が0402.21と0402.29、脱脂粉乳が0402.10、飲用乳が0401.10と401.20、ミルクおよびクリームが0401.50（脂肪分が全重量の10%以上）、ヨーグルトは0403.20、チーズが0406、バターが0405.10、育児用調製粉乳が1901.10、ホエイが0404.10。

（調査情報部）

飼料穀物

世界

26/27年度の期末在庫は、前月から下方修正でかなりの程度減少

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および同省海外農業局（USDA/FAS）は2026年7月10日、26/27年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は、12億9709万トン（前年度比2.3%減）と前月から329万トン下方修正された。EUやケニアなどの下方修正が反映された。

輸入量は、世界全体で2億400万トン（同3.7%増）と前月から437万トン上方修正された。EUの生産減やケニアの上方修正など

が反映された。

消費量は、世界全体で13億2049万トン（同0.4%減）と前月から203万トン下方修正された。EUやロシアの下方修正などが反映された。ただし、前月に引き続き生産量を上回ると予測されている。

輸出量は、世界全体で2億988万トン（同4.9%減）と前月から227万トン上方修正された。米国やカナダの上方修正が反映された。

この結果、期末在庫は、2億7526万トン（同7.8%減）と前月から596万トン下方修正された。米国、ウクライナ、EU、中国の下方修正が反映された。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し（2026年7月10日米国農務省公表）

(単位：万トン)

国名	2024/25年度	25/26年度 (推計値)	26/27年度			
			(6 月 予測)	(7 月 予測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	4,479	3,940	5,448	5,131	30.2%
	生産量	37,827	43,234	40,629	40,642	▲6.0%
	輸入量	55	71	64	64	▲9.9%
	消費量	31,124	33,669	33,161	33,161	▲1.5%
	輸出量	7,297	8,446	8,001	8,128	▲3.8%
	期末在庫	3,940	5,131	4,978	4,546	▲11.4%
	ブラジル	期首在庫	735	1,160	1,230	1,230
生産量		13,600	13,800	13,900	13,900	0.7%
輸入量		176	170	180	180	5.9%
消費量		9,150	9,600	9,800	9,800	2.1%
輸出量		4,201	4,300	4,400	4,400	2.3%
期末在庫		1,160	1,230	1,110	1,110	▲9.8%
アルゼンチン		期首在庫	246	530	471	471
	生産量	4,900	6,300	5,500	5,500	▲12.7%
	輸入量	1	1	1	1	0.0%
	消費量	1,710	1,860	1,770	1,770	▲4.8%
	輸出量	2,907	4,500	3,800	3,800	▲15.6%
	期末在庫	530	471	401	401	▲14.9%
	ウクライナ	期首在庫	54	84	275	225
生産量		2,680	3,090	3,000	3,000	▲2.9%
輸入量		2	1	1	1	0.0%
消費量		650	650	720	720	10.8%
輸出量		2,002	2,300	2,300	2,300	0.0%
期末在庫		84	225	256	206	▲8.4%
EU		期首在庫	729	588	508	508
	生産量	5,959	5,680	5,750	5,378	▲5.3%
	輸入量	1,876	1,850	1,950	2,250	21.6%
	消費量	7,700	7,400	7,480	7,440	0.5%
	輸出量	276	210	190	190	▲9.5%
	期末在庫	588	508	538	506	▲0.4%
	中国	期首在庫	21,119	19,193	17,815	17,715
生産量		29,492	30,124	30,700	30,700	1.9%
輸入量		182	500	600	600	20.0%
消費量		31,600	32,100	32,500	32,500	1.2%
輸出量		0	2	2	2	0.0%
期末在庫		19,193	17,715	16,613	16,513	▲6.8%
世界計		期首在庫	31,387	29,621	30,336	29,867
	生産量	123,392	132,770	130,038	129,709	▲2.3%
	輸入量	18,615	19,673	19,963	20,400	3.7%
	消費量	125,158	132,524	132,252	132,049	▲0.4%
	輸出量	18,748	22,066	20,761	20,988	▲4.9%
	期末在庫	29,621	29,867	28,122	27,526	▲7.8%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

(調査情報部)

生産量は増加も、消費量や輸出量の上方修正から 大豆期末在庫は下方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および同省海外農業局（USDA/FAS）は2026年7月10日、2026/27年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億4170万トン（前年度比2.9%増）と前月から36万トン上方修正された。このうち、最大の生産国であるブラジルは1億8600万トン（同3.3%増）と前月から据え置かれたものの、これに次ぐ米国は、同省全国農業統計局（USDA/NASS）が6月30日に公表した大豆の作付面積の増加報告を受けて、1億2179万トン（同5.0%増）と前月から109万トン上方修正された。加えて、カナダも同様に作付面積の増加により上方修正されたが、ロシアの作付面積の減少による下方修正が全体の増産見込みの一部を相殺した。

輸入量は、世界全体で1億8927万トン（同1.6%増）と前月から125万トン上方修正された。国別に見ると、最大の輸入国である中国が1億1500万トン（同1.8%増）と前月から100万トン上方修正されたことなどが反映された。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億

8417万トン（同3.1%増）と前月から108万トン上方修正された。国別に見ると、最大の消費国である中国が1億1100万トン（同1.8%増）と前月から100万トン上方修正されたことなどが反映された。

輸出量は、世界全体で1億9041万トン（同1.8%増）と前月から119万トン上方修正された。このうち、最大の輸出国であるブラジルは1億1800万トン（同2.6%増）と前月から50万トン、これに次ぐ米国も4518万トン（同9.2%増）と前月から82万トン、それぞれ上方修正された。

期末在庫は、生産量が前月から上方修正されたものの、ブラジルの期末在庫の下方修正などから、世界全体では1億2417万トン（同0.9%減）と前月から71万トン下方修正された。

今回の予測値に関して、大豆の国際相場に影響を与える中国の輸入量に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した26/27年度の同国の大豆輸入量は9550万トンと前月から据え置かれた。一方、USDAの予測では同輸入量が上方修正されたことから、両者の乖離^{かいり}は前月から100万トン拡大し、1950万トンとなった。

表 主要国の大豆需給見通し（2026年7月10日米国農務省公表）

（単位：万トン）

国名	2024/25年度	25/26年度 (推計値)	26/27年度			
			(6 月 予 測)	(7 月 予 測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	932	884	925	898	1.6%
	生産量	11,905	11,599	12,070	12,179	5.0%
	輸入量	81	68	68	68	0.0%
	消費量	6,655	7,212	7,484	7,484	3.8%
	輸出量	5,150	4,137	4,436	4,518	9.2%
	期末在庫	884	898	844	844	▲6.0%
ブラジル	期首在庫	2,976	3,769	3,769	3,769	0.0%
	生産量	17,250	18,000	18,600	18,600	3.3%
	輸入量	73	90	80	80	▲11.1%
	消費量	5,816	6,150	6,500	6,500	5.7%
	輸出量	10,314	11,500	11,750	11,800	2.6%
	期末在庫	3,769	3,769	3,739	3,689	▲2.1%
アルゼンチン	期首在庫	2,405	2,467	2,382	2,382	▲3.4%
	生産量	5,111	5,000	5,000	5,000	0.0%
	輸入量	632	705	650	650	▲7.8%
	消費量	4,324	4,200	4,300	4,300	2.4%
	輸出量	787	900	620	620	▲31.1%
	期末在庫	2,467	2,382	2,422	2,422	1.7%
中国	期首在庫	4,331	4,449	4,437	4,437	▲0.3%
	生産量	2,065	2,090	2,100	2,100	0.5%
	輸入量	10,800	11,300	11,400	11,500	1.8%
	消費量	10,350	10,900	11,000	11,100	1.8%
	輸出量	7	12	10	10	▲16.7%
	期末在庫	4,449	4,437	4,427	4,427	▲0.2%
世界計	期首在庫	11,510	12,593	12,552	12,533	▲0.5%
	生産量	42,805	42,946	44,134	44,170	2.9%
	輸入量	17,915	18,634	18,802	18,927	1.6%
	消費量	35,914	37,249	38,309	38,417	3.1%
	輸出量	18,433	18,708	18,922	19,041	1.8%
	期末在庫	12,593	12,533	12,488	12,417	▲0.9%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

（調査情報部）

米 国

米国は生産量の減少などから期末在庫はかなり大きく減少

USDA/WAOBは2026年7月10日、26/27年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

米国内生産量は、前月から上方修正されたものの、収穫面積と単収の減少が影響し、160億ブッシェル（4億642万トン^{（注1）}、前年度比6.0%減）と前年度からかなりの程度減少すると見込まれている。

米国内消費量は前月から据え置きで、130億5500万ブッシェル（3億3161万トン、同1.5%減）と前年度からわずかな減少が見込まれている。

輸出量は前月から上方修正されたものの、

32億ブッシェル（8128万トン、同3.8%減）と前年度からやや減少すると見込まれている。

この結果、期末在庫は、期首在庫が前月から下方修正されたことも影響し、17億9000万ブッシェル（4547万トン、同11.4%減）と前年度からかなり大きく減少すると見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、11.0%（同1.2ポイント減）と、前年度を下回ると見込まれている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり4.40米ドル（712円。1キログラム当たり

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2026年7月10日米国農務省公表）

区分	－単位－	2024/25 年度	25/26 年度 (推計値)	26/27年度			前年度比 (増減率)
				(6月予測)	(7月予測)	参考（換算値）	
作付面積	(万エーカー)	9,090	9,880	9,530	9,530	3,857 (万ヘクタール)	▲3.5%
収穫面積	(万エーカー)	8,300	9,130	8,740	8,740	3,537 (万ヘクタール)	▲4.3%
単収	(ブッシェル/エーカー)	179	187	183	183	11 (トン/ヘクタール)	▲1.9%
期首在庫	(万ブッシェル)	176,300	155,100	214,500	202,000	5,131 (万トン)	30.2%
生産量	(万ブッシェル)	1,489,200	1,702,100	1,599,500	1,600,000	40,642 (万トン)	▲6.0%
輸入量	(万ブッシェル)	2,200	2,800	2,500	2,500	64 (万トン)	▲10.7%
総供給量	(万ブッシェル)	1,667,700	1,860,000	1,816,500	1,804,500	45,836 (万トン)	▲3.0%
国内消費量	(万ブッシェル)	1,225,300	1,325,500	1,305,500	1,305,500	33,161 (万トン)	▲1.5%
飼料等向け	(万ブッシェル)	543,800	635,000	610,000	610,000	15,495 (万トン)	▲3.9%
食品・種子・その他工業向け	(万ブッシェル)	681,500	690,500	695,500	695,500	17,666 (万トン)	0.7%
うちエタノール向け	(万ブッシェル)	543,600	555,000	560,000	560,000	14,225 (万トン)	0.9%
輸出量	(万ブッシェル)	287,300	332,500	315,000	320,000	8,128 (万トン)	▲3.8%
総消費量	(万ブッシェル)	1,512,600	1,658,000	1,620,500	1,625,500	41,289 (万トン)	▲2.0%
期末在庫	(万ブッシェル)	155,100	202,000	196,000	179,000	4,547 (万トン)	▲11.4%
期末在庫率	(%)	10.3	12.2	12.1	11.0		1.2ポイント減
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	4.24	4.15	4.40	4.40	28.01 (円/kg)	6.0%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1ブッシェルは約25.401キログラム、1エーカーは約0.4047ヘクタール。

注3：換算値は端数処理の関係で表1と一致しない場合がある。

28円：1米ドル＝161.72円^(注2)、同6.0%高）と前年度からかなりの程度上昇すると見込まれている。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年7月末TTS相場。

（調査情報部）

中国

トウモロコシおよび大豆の価格動向

26年6月の国産トウモロコシ価格はわずかに下落

中国農業農村部は2026年7月21日、「農産物需給動向分析月報（2026年6月）」を公表した。この中で、同年6月の国産トウモロコシ価格はわずかに下落した（図1）。同月のトウモロコシ需給について、1）政府系企業による輸入トウモロコシの貯蔵在庫の放出が継続的に実施されたこと、2）こうりゃんや大麦といった代替飼料の輸入が増加したこと、3）一部貿易企業での輸入トウモロコシの売却意欲の高まりにより、市場への供給が増加したことにより需給が一時的に緩和し、価格が下落したと報告されている。今後の見通しについて、飼料用やコーンスターチ製造企業などによる工業用の需要が減少し、

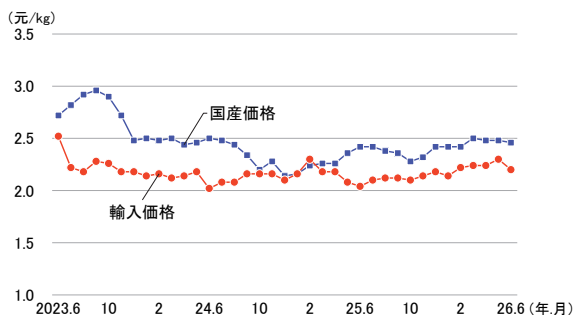
需給は一時的に緩和しているため、短期的な国産トウモロコシ価格は、安定基調からやや弱含みで推移すると見込まれている。

輸入トウモロコシ価格を見ると、養豚主産地の中国南部向け飼料原料集積地となる広東省^{こうほ}黄埔港到着価格は、26年6月が1キログラム当たり2.20元（53円：1元＝24.11円^(注)、前月比4.3%安）とやや下落した。また、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）は同2.46元（59円、前月比0.8%安）となり、輸入価格の下落幅が国産価格の下落幅をやや上回ったことから、輸入と国産の価格差は拡大した。

26年6月の国産大豆価格もわずかに下落

2026年6月の国産大豆価格も、国産トウモロコシ同様にわずかに下落した（図2）。同月の大豆需給について、26年度の大豆生育状況が良好であることに加え、国家備蓄大豆の競売が順調に成立したことで供給確保への安心感が広がり、市場の需給は一時的に緩和したためと報告されている。今後、短期的な国産大豆価格は、1）気温の上昇により各大豆製品の消費が季節的に閑散期となること、2）市場の供給確保への安心感があること一から横ばいからやや弱含みで推移すると見込まれている。

図1 トウモロコシ価格の推移

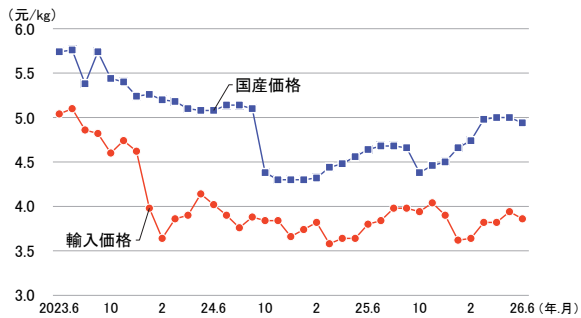


資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、26年6月が1キログラム当たり4.60元（111円、前年同月比12.7%高）とかなり大きく上昇したものの、前月比ではわずかな下落となった。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同4.94元（119円、同6.5%高）とかなりの程度上昇したものの、前月比ではわずかな下落と

なった。同月の輸入大豆価格は同3.86元（93円、前月比2.0%安）とわずかに下落したものの、輸入価格の下落幅が国産価格の下落幅をわずかに上回ったことから、輸入と国産の価格差は拡大した。

国際相場に影響する中国の大豆輸入量は、前年をわずかに下回る水準となっている。26年（1～5月）の輸入量は、3694万2500トン（前年同期比0.4%減）とわずかに減少した。また、輸入額も、同5.3%増の175億7700万米ドル（2兆8426億円：1米ドル＝161.72円^{（注）}）とやや増加したと報告されている。主な輸入先は、ブラジル（総輸入量の61.4%）、米国（同22.7%）アルゼンチン（同10.1%）である。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年7月末TTS相場。

（調査情報部）